

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：14601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23700866

研究課題名(和文) 介護事業所と地域の役割補完による高齢者と地域の相互関係の構築に関する研究

研究課題名(英文) Study on Maintain the Relationship Between the Elderly and Community by the Role Complement of Nursing Homes and Community.

研究代表者

立松 麻衣子 (TATEMATSU, MAIKO)

奈良教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60389244

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、介護事業所と地域が相互に役割を補完することによって、高齢者のその人らしい生活を支えることができると考えている。そこで次の(1)～(3)を目指した調査研究や実践的取組を行った。すなわち、(1)介護事業所のない機能を地域がカバーする、(2)地域のない機能を介護事業所がカバーする、(3)介護事業所と地域が協働する、である。

その結果、介護事業所と地域が相互に役割を補完することによって、施設高齢者と地域の関係性、および地域高齢者と地域の関係性を維持や再生することができることがわかった。また、介護事業所は高齢者が地域と関わることをサポートできる重要なポジションにあることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study assumes that the life in character with the elderly is supportable, when nursing home and community complement a role mutually. Then, it took the surveillance study and the practical measure which aimed at following (1)-(3). (1)Community covers the function which nursing home is not enough. (2)Nursing home covers the function which community is not enough. (3)Nursing home and community collaborate.

As a result, when nursing home and community complement a role mutually showed that it could perform maintenance and reproduction of relationship between the elderly and community. Moreover, it was suggested that nursing home is in the important position which can support that the elderly is concerned with community.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：高齢者 地域居住 介護事業所 地域 役割補完

1. 研究開始当初の背景

高齢者のその人らしい生活を実現するためには、地域社会からの一方向のサポートだけではなく(高齢者 地域社会)、高齢者と地域社会の双方向の関係性を築くことが重要だと考えた(高齢者⇄地域社会)。そこで、高齢者が担う「役割」に着目し、「高齢者⇄地域社会」の関係性を構築する方法を検討した(「要支援高齢者と地域の相互関係の構築に関する基礎的研究」平成17~19年度 科学研究費補助金 若手研究(B) 課題番号17700553)。この研究によって、施設高齢者が「役割」を持てる取組には、生活を管理する取組や、子どもや地域と関わる取組があることを確認した。

しかし、年々心身症状が重度化する要介護高齢者には、活動による「役割」の取得が難しくなる。そこで、「高齢者⇄地域社会」の関係性を維持するためには、高齢者の人間関係を維持するサポートが重要だと考えた(「要介護高齢者と地域の持続的相互関係の構築に関する研究」平成20~22年度 科学研究費補助金 若手研究(B) 課題番号20700572)。この研究から、介護事業所は、高齢者の人や環境のつながりを意識して要介護高齢者に関わることが重要だとわかった。

一連の研究から次の問題意識を持った。

【問題意識】

- ・介護事業所は、地域の力を借りることによって、施設高齢者と地域の関係性を再建できる可能性があるのではないだろうか。
- ・介護事業所には、地域高齢者の「施設入所を遅らせる」という機能を持てる可能性があるのではないだろうか。
- ・在宅介護サービスには、在宅要介護高齢者と地域、在宅要介護高齢者と家族介護者の関係性を再建や維持ができる可能性があるのではないだろうか。

本研究では、この可能性について調査研究を重ね、高齢者と地域の相互関係を追究することにした。

2. 研究の目的

高齢者のその人らしい生活の実現のためには、高齢者と地域の関係性が重要である。また、高齢者に対しては、「身体ケア」と、社会とつなぐ「関係性を支えるケア」を含めた、暮らしをつなぐ「生活を支えるケア」を提供する必要があると考えている。本研究では、高齢者に「生活を支えるケア」を提供するために介護事業所と地域が相互に役割を補完することで、高齢者と地域の持続的な相互関係が築かれることを明らかにする。

3. 研究の方法

介護事業所と地域がそれぞれに役割を担うことによって、高齢者の暮らしをつなぐ「生活を支えるケア」を提供することができると

仮定し、次の3つの仮説をたてて、それぞれに対して取り組んだ。

なお、平成23年度は仮説(1)に対する取組と検証を行った。平成24年度には仮説(2)に対する取組と検証、平成25年度には仮説(3)に対する取組と検証を行った。

【仮説】

- (1) 介護事業所のない機能を地域がカバーすることで、施設高齢者と地域の関係性を再建できる。
- (2) 地域にない機能を介護事業所がカバーすることで、介護事業所は地域高齢者の地域居住をサポートできる。
- (3) 介護事業所と地域が協働することで、在宅要介護高齢者と地域、在宅要介護高齢者と家族介護者の関係性を維持できる。

【平成23年度】

- ・仮説(1)：介護事業所のない機能を地域がカバーすることで、施設高齢者と地域の関係性を再建できる。
- ・取組(1)：様々な世代の人が定期的に事業所に入出入りする環境を作り、地域社会の多世代の人間関係を介護事業所に持ち込む。
- ・方法(1)：イベント的取組(バザー)と、定期的取組(子どもの習い事教室会場の提供、老人会や自治会の会議会場の提供、ミニコミ誌の発行と近隣配付)を行った。また、バザー参加者に対して配票調査を行った。調査票の配付・回収数は49票である。回答者属性を表1に示す。調査項目には、施設が地域に向けて取り組むことへの評価、施設で開催したら参加・利用したい催し物等を挙げた。

表1. バザー参加者属性

	人数	%
年齢 (n=49)	20歳代	2 4.1
	30歳代	16 32.7
	40歳代	7 14.3
	50歳代	6 12.2
	60歳代	12 24.5
	70歳代	5 10.2
	80歳代	1 2.0

【平成24年度】

- ・仮説(2)：地域にない機能を介護事業所がカバーすることで、介護事業所は地域高齢者の地域居住をサポートできる。
- ・取組(2)：地域高齢者の生活実態とニーズを把握し、介護事業所の専門性や多機能性を地域に持ち込む。
- ・方法(2)：地域高齢者に配票調査を行った。調査票の配付数は142票、回収票125票、回収率および有効回答率は88.0%である。回答者属性を表2に示す。調査項目には、外出範囲・頻度、家族・友人関係、近所付き合い、買物・調理活動、生活サービスニーズ等を挙げた。

		人数	%
性別 (n=125)	男性	59	47.2
	女性	62	49.6
	無回答	4	3.2
年齢 (n=125)	60歳代	35	28.0
	70歳代	60	48.0
	80歳代	24	19.2
	90歳代	2	1.6
	100歳代	1	0.8
	無回答	3	2.4

【平成 25 年度】

- ・仮説(3)：介護事業所と地域が協働することで、在宅要介護高齢者と地域、在宅要介護高齢者と家族介護者の関係性を維持できる。
- ・取組(3)：在宅介護サービスを利用している要介護高齢者と家族介護者の生活状況を把握し、問題の解決に向けて施設力と地域力を出し合う。
- ・方法(3)：ショートステイを利用している家族介護者に対して配票調査を行った。調査票の配付・回収数は76票である。回答者属性を表3に示す。調査項目には、介護負担感、サービス利用理由、サービス利用効果、生活サービスニーズ等を挙げた。

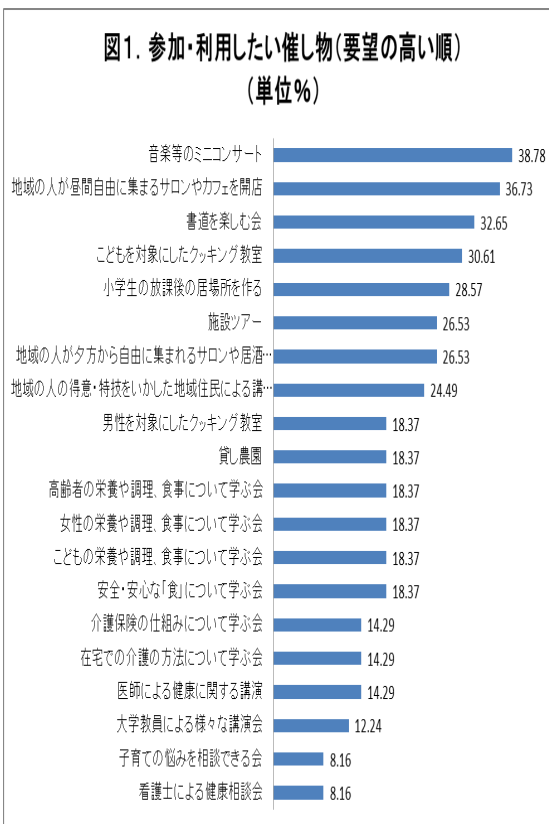
		人数	%
性別 (n=76)	男性	10	13.2
	女性	66	86.8
年齢 (n=76)	40代	4	5.3
	50代	22	28.9
	60代	34	44.7
	70代	14	18.4
	80代	2	2.6
要介護高齢者との続柄 (n=76)	配偶者	16	21.1
	娘	34	44.7
	息子	8	10.5
	息子の配偶者	18	23.7

4. 研究成果

(1) 介護事業所がない機能を地域がカバーする

介護事業所に地域が入る取り組みとして、イベント的取組(バザー)と、定期的取組(子どもの習い事教室会場の提供、老人会や自治会の会議会場の提供等、介護事業所発行ミニコミ誌の近隣住戸配付)を行った。

これらの取組の参加者は、介護事業所による同様の取組を積極的に行うべきと考えていることを配票調査から把握した(図1)。求めている取組には、コンサート、サロン、各種教室、子どもの放課後の居場所、施設ツアー、住民による講演会等が挙がってきた。



この結果を受けて、平成 23 年度に介護事業所を会場にしたサロンを開催した。また、取組による施設高齢者の効果を観察すると、子どもが習い事に来る曜日・時間を心待ちにしている様子を見ることができた。さらに、その時の衣装や表情にも施設生活の日常とは異なる様子を見ることができた。

「介護事業所に不足する多世代が行き来する機能を地域が補完する」ための定期的な取組は、施設高齢者と地域の持続的な相互関係につながる可能性がある。

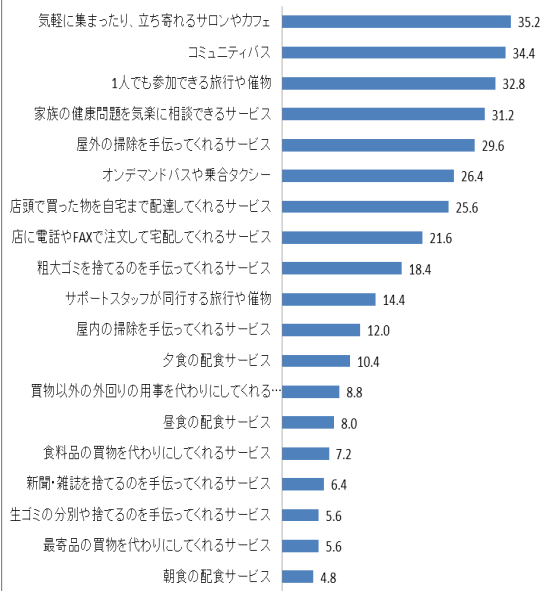
(2) 地域にない機能を介護事業所がカバーする

地域高齢者の生活調査から日常生活ニーズを把握した(図2)。その結果、足回りへのニーズや重労働を伴う家事の代行が挙がっており、地域高齢者には日常生活を送る上での困難があることが明らかになった。また、気楽に参加できる旅行や催し物、人と会える機会へのニーズもあり、外出機会や人とのつながりを創出することの意義も明らかになった。

そこで、地域高齢者の外出機会や人とのつながりを創出するために、介護事業所を会場にしたサロンを開催した。サロンでは、談話を主目的にした会を開催したり、行政の出張講座を利用したり、企業の協力を得て講座を開催したりした。

「地域に不足する生活や人のつながりを支える機能を介護事業所が補完する」ための取組は、介護事業所が地域高齢者の日常生活を支えることや、地域高齢者と地域との関係性を維持することにつながる可能性がある。

図2. 利用したい生活サービス(要望の高い順)
(単位%)



(3) 介護事業所と地域が協働する

ショートステイを利用する家族介護者に対する配票調査から、要介護高齢者の生活活動の実態等を把握し、在宅要介護高齢者の関係性の問題を検証した。

また、ショートステイを利用する家族介護者の介護負担感類型別に、要介護高齢者の状況や介護環境、ショートステイ利用効果、生活ニーズ等を分析した。そして、介護負担感別に、家族介護者の生活に介護やショートステイがどのように位置づいているのかを整理した。さらに、どのようにショートステイを利用すればよいか、介護事業所はどのように介入すればよいかを明らかにした。

具体的には、ショートステイを利用する家族介護者は、「精神的負担感が強いタイプ」「身体的負担感が強いタイプ」「介護負担感が中程度のタイプ」「介護負担感が弱いタイプ」がある。精神的負担感が強い家族介護者の場合は図3のように、身体的負担感が強い家族介護者の場合には図4のように、家族介護者を守るためのショートステイのあり方をまとめた。

さらに、介護事業所と地域住民との協働のもとで施設高齢者の一時帰宅を試行し、介護事業所と地域がどのように役割をカバーしあえば要介護高齢者の関係性を支えることができるかを検討した。

以上の取組と検証から、介護事業所のマネジメントによって、在宅要介護高齢者と家族介護者の関係性を支えることができることがわかった。また、介護事業所と地域がそれぞれに役割を担うことによって高齢者の暮らしをつなぐ「生活を支えるケア」を行うことができること、高齢者とその周辺の人や環境のつながりを支えることが高齢者の地域居住につながることをわかった。

図3. <精神的負担感が強い家族介護者へのマネジメント>

介護環境による精神的負担感に加えて、家事に手が回らないことを負担に感じている。50-60歳代で、介護期間が短く、始めたばかりの慣れない介護に戸惑っている時期であり、介護協力者がいるにも拘らず負担感が強い。要介護高齢者の要介護度は低い場合と高い場合がある。ショートステイを利用してまとまった時間が欲しいという強い気持ちがあり、介護から解放されたいという欲求がある。そのため、1人で参加したりサポートスタッフが同行する旅行や催し物への参加ニーズが高い。

これらの結果から、このタイプは生活よりも介護の比重が大きくなっていると考えられる。このタイプの家族介護者に対しては、1か月に1週間等の比較的まとまった期間、ショートステイが利用できるような居宅サービス計画が家族介護者には効果的ではないかと考えられる。まとまった利用期間の計画によって、家族介護者の精神的負担が低減し、在宅介護を継続しようという気持ちをサポートすることができると考えられる。

図4. <身体的負担感が強い家族介護者へのマネジメント>

適切な介護方法がわからず、食事・排泄・入浴の介護負担や、家事に手が回らないことを負担に感じている。老々介護や男性介護者（配偶者、息子）であることも多く、要介護高齢者とは介護が必要になる前から同居していることが多い。介護期間は比較的長く、終わりのない介護に疲労がたまる時期である。介護協力者はいるが負担感が強く、在宅介護の限界を感じて、入所を希望しているケースも多い。要介護高齢者の栄養状態は、At riskと低栄養（100%）が頻出し、高齢者の心身状況の悪化と介護の重度化が危惧される。ショートステイのサービス内容への要望は少ないが、ショートステイを利用して、日常の介護で棚上げになっていることを行う時間が欲しいという欲求がある。生活サービスに対しては健康相談や屋内外の清掃、ゴミ処理、オンデマンド交通のサービスがあれば利用したいと思っているが、それら1つ1つへのニーズは概して低い。

これらの結果から、このタイプは適切な方法で介護を行っていないために身体的負担と介護に要する時間が増大しており、専門家の助言を受けたり生活サービスを利用したりする必要があると考えられる。しかし、専門家や生活サービスに対して、それを頼るまでのツールをもたず、また自分ではニーズを意識していないタイプであると考えられる。特にこのタイプに多い男性介護者については、社会的孤立や社会参加の困難さが指摘されている。このタイプの家族介護者に対しては、1週間に数日等の短いショートステイ利用を繰り返すような居宅サービス計画が家族介護者には効果的ではないかと考えられる。家族介護者と施設との接触を増やすことによって、施設から社会資源の活用方法や介護方法、栄養のアドバイスをもらう機会がふえ、在宅介護を継続できる介護環境づくりにつながるができる。さらに、短期間を繰り返す利用は、要介護高齢者に栄養バランスが整った食事を提供できることになり、心身症状の重度化を遅らせることもできる。

(4) 今後の課題

一連の研究から、高齢者が持続的に地域と関わりを持つためにはサポートが必要であり、介護事業所はサポートの一役を担うことができる重要なポジションにあることがわかった。

さらに、本研究で仮説(1)～(3)に対して取り組んできたなかで(取組(1)～(3)、方法(1)～(3))、高齢者の地域居住にむけて、さらに追究すべき課題 - が出てきた。

【課題】

施設高齢者のなかには一時帰宅を希望する者がいる。

地域高齢者の約4分の1が低栄養傾向である。

地域高齢者のなかには近隣との関わりが極端に少ない者がいる。

足回り、買物、清掃等、日常生活ニーズのある地域高齢者が多い。

気楽に集まれる居場所へのニーズがある地域高齢者が多い。

低栄養傾向の高齢者は、ショートステイ>デイサービス>地域の順に多い。

ショートステイでは、ケアマネジャー・介護事業所・利用側(要介護高齢者、家族介護者)の関係性が利用側の生活を低下させる可能性もある。

高齢者の地域居住に関する課題 - は、解決に向けて方策を検討する必要がある。そして、介護事業所がもつ専門性や社会的機能は課題 - に向けて動けると考える。今後、研究の蓄積から出てきた高齢者の地域居住に関する課題に対して、介護事業所と地域が相互に役割を担い共に効果が得られる解決策を検討していく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者に下線)

[雑誌論文](計1件)

立松麻衣子、家族介護者の介護負担感からみたショートステイの方策 - 要介護高齢者の地域居住を支える介護事業所のあり方に関する研究 -、日本家政学会誌、査読あり、64巻、2013、577 - 590

[学会発表](計4件)

立松麻衣子、「現代人の食と暮らし」高齢者のくらしと食、日本家政学会第66回大会公開講演会、2014、北九州国際会議場
立松麻衣子、施設高齢者と地域社会の関係性を維持する逆ショートステイの実践、日本家政学会第66回大会、2014、北九州国際会議場

立松麻衣子、施設高齢者と地域関係性を作るための施設側の方策 - 介護事業所と地域の役割補完による高齢者と地域の相互関係の構築に関する研究 -、第19回日本介護福祉学会大会、2012、京都女子大学

立松麻衣子、在宅要介護高齢者の地域居住を支える「関係性を支えるケア」 - 小規模介護施設の居宅介護サービス利用者へのサポート事例からの考察 -、第19回大会日本介護福祉学会大会、2011、大妻女子大学多摩キャンパス

6. 研究組織

研究代表者

立松 麻衣子 (TATEMATSU, Maiko)

奈良教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60389244